

SJ

The Safety Japan  
since 1971

## Safety Report

セーフティルポ 子ども・高齢者

三世代がともに交通安全教室で学ぶことで  
各世代への理解を深め、安全意識を高めてもらう

三世代交流による交通安全教育は高齢者と子ども（孫世代の幼児・児童）、その中間に当たる世代（子どもの保護者など）と一緒に学ぶ手法である。三世代が同時に交通安全教育の場に参加することにより、お互いの立場を理解し合うとともに、交通事故を防ぐために必要な考え方や安全行動を各世代に身につけてもらうことを目的としている。今回は、岡山県津山市が推進している三世代交通安全教室を紹介する。

様々な世代と一緒に学ぶことで  
お互いの立場を思いやる

津山市では 20 年以上前から三世代交流による交通安全教室を継続して実施している。この交通安全教室を推進している同市環境生活課の交通指導員 三谷温美さんは、様々な世代と一緒に交通安全について考える意義を次のように説明する。

「普段、交流する機会のない他の世代と一緒に学ぶことは、お互いの立場について考える良い機会だととらえています。高齢者や子どもの身体や行動の特性などを共有できるのは、三世代で実施する大きなメリットといえるでしょう。また、他の世代との交流を通じて、一人ひとりが交通事故につながる危険な行動をしているのではないかと振り返ってもらいたいと考えています。各世代がそれぞれの立場で相手を思いやり、やさしい行動をとれば、事故は防げるということに気づいてほしいのです」。

今年 4 月には、岡山県などが主催する「春の交通安全県民運動推進大会」が津山市で開催され、その中で「三世代による決意表明」という寸劇風のプログラムが披露された。三谷さんは、このプログラムのシナリオを担当。「高齢者からみると、若い世代が運転するクルマや自転車のルール・マナー違反が気になっているはず。逆に若い世代は、高齢の歩行者や運転者に対して不安を抱えています。また、大人はスマートフォンを操作しながら歩いたり、自転車に乗っている中学生・高校生を危ないと感じています。子どもの立場では、大人は『交通ルールを守って』というけれど、『自分たち大人は守っているのか』という思いがあるでしょう。そうした意見を高校生、老人クラブ、交通安全母の会の代表者が出し合い、それまでの自分たちの考え方や行動を見直すというストーリーでシナリオを書きました」。

このように、三谷さんは長年の経験を活かし、様々な世代が一緒になって交通安全を学ぶことで、お互いの立場を思いやる機会をつくることに努めている。



津山市生活環境課の交通指導員 三谷温美さんは三世代交通安全教室で Honda の高齢歩行者プログラムを活用。受講者への問いかけを通じ、道路横断中における事故の原因などを考えてもらいながらプログラムを進めた

## Contents

- P1 Safety Report セーフティルポ 子ども・高齢者
- P3 Close Up クローズアップ 四輪販売会社  
Close Up クローズアップ 教育プログラム
- P4 Close Up クローズアップ 道路交通法
- P5 SJ Interview  
(公財) 交通事故総合分析センター  
研究部 研究第一課 特別研究員 小菅英恵さん
- P6 Close Up クローズアップ 福祉安全運転
- P7 TRAFFIC SCOPE 交通参加者の行動を観察する
- P8 危険予測トレーニング (KYT)  
SJ クイズ



## Safety for Everyone

Honda はすべての人の  
交通安全を願い活動しています。

SJ ホームページは



編集部：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内  
〒107-8556 東京都港区南青山 2-1-1  
TEL：03(5412)1736  
https://www.honda.co.jp/safetyinfo/  
編集人：横山謙一

※ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。  
(株)アストクリエイティブ安全運転普及本部係  
TEL：03(5439)1191  
E-mail：sj-mail@spirit.honda.co.jp

高齢者向けのプログラムを  
他の世代も一緒に受講

7 月 26 日、津山市立大崎小学校の体育館で、三世代交通安全教室「いきいき笑顔で交通安全」が開催された。受講者は主催する大崎地区高齢者市民学級に所属する高齢者と大崎小学校児童クラブアップル（学童）の小学 1～5 年生、児童クラブのスタッフや児童の保護者など約 50 名。

「児童クラブのスタッフの方々には、交通安全教室に参加する機会が少ないと思います。交通ルールを再確認し、日々の学童保育のなかで子どもたちに繰り返し指導をしてほしいと考え、参加してもらうことにしました」

と三谷さんはいう。今回、三谷さんは初めて交通安全教室に Honda の高齢歩行者プログラム「安全な道路の渡り方」を取り入れた。このプログラムは、高齢歩行者の典型的な交通事故である道路横断中にクルマと衝突する事故を、どのようにすれば防げるのか、高齢者自身に考えてもらうことを目的とした映像教材で、場面ごとに高齢者に問いかけながら進める対話型の構成になっていることが特徴だ。導入の「アタマとカラダの準備体操」を終えると、高齢者（65歳以上）の道路歩行中の交通死亡事故が多いのはどのようなケースか、全員に考えてもらう。スクリーンに「前からクルマが接近中」「後ろからクルマが接近中」「横断中」の3つのパターンが表示されると、「皆さんは、どれだと思いますか？」と三谷さんが全員に問いかける（正解は「横断中」）。このように、道路のどんな場所で事故が発生しているのかを質問形式で問いかけ、一番事故が発生しているのが、横断歩道のないところを横断中の後半、左側から来るクルマと接触して事故になるケースであることを説明。道路を横断する際は、横断歩道が少し離れていても安全のために必ず横断歩道を渡るように促した。やむを得ず横断歩道がないところを横断する場合は、左右からクルマなどが来ていないことを十分に確認して渡るように伝えた。

さらに、こうしたケースの事故が起きる過程を再現したアニメーションを流し、その原因を考えてもらった後、実際に片側一車線を左右からクルマが接近する中、歩行者が横断する設定で、歩行者目線とクルマのドライバー目線それぞれの映像を見せる。歩行者は右側から通り過ぎたクルマがつくり出す死角により、左側から接近してくるクルマが見えない。一方、ドライバーは右側から横断してくる歩行者が対向車の死角に入っで見えない。歩行者とドライバーの双方が死角に入り、どちらも「いないはず」と思い込んで進んでしまったことが原因になっていると解説した。

この後、各世代の代表者にスクリーンの前に出てきてもらい、横断体験（右写真参照）を行って高齢歩行者プログラムは終了となった。

### 「あやとりい ひよこ」は どの世代にも活用できる

三世代交通安全教室は、三谷さんと交通安全教室をサポートするボランティアの高校生による寸劇をはさんで、腹話術人形による「交通安全のお話」となった。三谷さんが腹話術人形を操りながら、道路を横断する前に止まって、クルマのドライバーに渡りたいという意思を伝えるために手を上げる、右、左、右をよく観るなど安全な道路の渡り方を説明。雨の日に傘をさす時は前後に傾けず、周囲の状況を確認できるようにまっすぐ上に向けるよう付け加えた。また、Honda の交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ（P3 参照）」のワークシートを使って、歩行者と自転車が通行すべき場所を受講者に再確認してもらった。そして、模擬の横断歩道で全員が安全な道路の渡り方を実践し、1時間半にわたる三世代交通安全教室は幕を閉じた。

三世代交通安全教室の主催者である大崎地区高齢者市民学級の会長 山下益資さんは「通常は私たち高齢者だけで交通安全教室を行っています。今回は夏休みの時期で小学生も参加できたので、子どもと児童クラブのスタッフを含めた三世代でやってみることにしました。子どもたちが一緒だと、（高齢者が）参加してみようという気持ちになります。映像を使った説明はわかりやすいと感じました。道路を渡る時は横断の後半に注意しないといけないことが理解できました。普段、登下校時の見守りをしているので、子どもたちが道路を横断する時にも今日学んだことを参考にしたいと思います」と話す。

大崎小学校児童クラブアップルのスタッフ 桑原尚子さんは「地域の皆さんと交流する機会は少ないので、子どもたちも楽しみながら交通安全を学んでいました。私たちも登下校の際に事故に遭わないようにアドバイスしたいと思います。私自身もハンドルを握る立場と

して、あらためて歩行者や自転車を意識することを心がけます」と感想を語った。

児童からは「クルマは遠くにいても、すぐにやってくるから、道路に飛び出したら危ないと思った」「道路の真ん中では、左側を注意しないといけないことがわかった」という声が聞かれるなど、高齢歩行者プログラムは子どもにとっても印象的だったようである。

三谷さんは幼児、小・中学生、高校生、大学生、高齢者および三世代、すべての交通安全教室において「あやとりい ひよこ」のワークシートを活用している。「安全行動の基本が盛り込まれた普遍的な内容で、最もわかりやすく指導できる教材だと思っています。歩行者

はもちろん、自転車や電動車いすの教室にも使っており、私の指導には欠かせない存在です。

この日は通常の交通安全教室より時間的余裕があったため、高齢歩行者プログラムを加えてみることにしたと三谷さんはいう。「実際に使ってみて、高齢者に知っておいてほしいことが網羅されたプログラムだと思いました。頭や身体を動かさず導入や、横断体験といった要素もあり、高齢者には最適です。また、部分的には子どもをはじめ他の世代への交通安全教育にも有効ではないかと感じました。今後も、このプログラムを活用していこうと考えています。

世代や属性に応じた交通安全教育に、三世代交通安全教室



高齢歩行者プログラムの横断体験。各世代の代表者はスクリーンの左端に立ち、三谷さんの合図で足踏みをする。それと同時に、スクリーンに道路の左からクルマが接近する映像を再生。足踏みにより道路横断を仮定し、スクリーンの奥から手前に向かってくるクルマとぶつかりそうになる設定となっている。速くから向かってくるクルマとの距離や速度はつかみにくく、自分が思っている以上に早く近づいてくることに気づいてもらう



高齢歩行者プログラムの導入では受講者が頭と身体を使って準備体操を行う



ボランティアの高校生と三谷さんによる寸劇では軽妙なやりとりが受講者を楽しませた



周囲が見えにくくならないための正しい傘のさし方を伝える三谷さん



「あやとりい ひよこ」のワークシートを使って、歩行者と自転車が通行すべき場所を説明



「いのちのルール♪」（岡山県発の命を守る交通安全オリジナルソング）に合わせた体操



交通安全教室の最後に、受講者全員が手上げの意味や左右確認の方法などを実践

